

日本福祉大学 第20号

松本オフィス通信



- No.1 特集「スポーツ科学部」
 No.2 2017信州+（長野実習報告）
 No.3 2017信州+（学生フィールドワーク・寿齢讃歌・大学祭）
 No.4 大学ステディ・フクしのお仕事紹介「MSW」
 No.5 学生奮戦記・教えて先輩！！
 No.6 入試情報・イベント情報

日福でスポーツ？

2017年新設！スポーツ科学部とは!?

現代の日本は、地域活性化や共生社会の形成、超高齢社会への対応、健康長寿社会の実現など、多くの課題に直面しています。

中でも「健康長寿社会」は日本の重点課題。

健康の維持・増進に不可欠なものが“スポーツ”と“健康教育”です。子どもから高齢者、障害者まですべての人にスポーツの楽しさを伝える指導者・教育者へのニーズが増えています。

日本社会に存在する「ふくし」に関わる課題解決に向けてスポーツは大きな可能性を秘めています。

その実現のためにも、スポーツや運動に関する科学的知識と、子どもから高齢者、障害者を含めた誰に対しても、その特性に応じて指導・支援できる力を持ち、スポーツの楽しさを伝えることができる人材が必要です。

そうした人材を輩出していくことが「ふくしの総合大学」である日本福祉大学スポーツ科学部のミッションであり、開設理由です。

スポーツ科学部のテーマは「スポーツを360° 科学する」。トレーニング科学だけでなく、教育・文化・福祉・医学・経営などあらゆる方向からスポーツを学習、研究できます。

スポーツをする人、見る人、支える人、どんな人のどんな関心にも360° 応えられる学部をめざし、スポーツ実践の現場はもちろん、産業・行政教育などあらゆる分野で活用できる能力をスポーツを題材とした大学教育を通じて養います。

2020年に東京オリンピック・パラリンピックを控え、ますますスポーツに注目が集まる今、スポーツを多角的に学びたい、研究したい方におススメしたい学部です！



※スポーツに関心があれば運動の得手不得手は問いません。



今やっているスポーツの技術を伸ばしたい
 もっと強く、もっと上達したい人

するスポーツが苦手、でも
 見る・考えるスポーツは好きな人

スポーツに懸命な人を支えたい人

あらゆる関心に応えます！

- ・もっと効果的な練習方法はないだろうか。
- ・チームワークをよくするにはどうすればいい？
- ・メンタル面を強化するトレーニング方法とは？
- ・女性のプロスポーツが少ないのはなぜだろう。
- ・マネージャーの役割って、一体なんだろう。
- ・障害者スポーツについて学んでみたい！
- ・体育の授業がスポーツ嫌いを生んでいると思う。
- ・誰でも楽しめるスポーツってあるのかな？

スポーツ学部の詳細や取得できる資格等に関しては、
 キャンパスガイドをご確認ください。

長野県出身在学生に聞きました。 スポーツ科学部について教えてください！

スポーツ科学部
 藤松 葉さん
 （松本美須ヶ丘高校出身）



- Q1. スポーツ科学部を選んだ理由は？
 ⇒ 1年生のうちから様々な事を学べるところ
- Q2. どんなことを学んでいますか？
 ⇒ 筋肉のこととかスポーツとは何か？
 といったところを学んでいます
- Q3. スポーツ科学部のおススメポイントは？
 ⇒ 新しい施設サルトがあるところです
- Q4. 印象に残っている講義は？
 ⇒ スポーツマネジメント
- Q5. 入学前のイメージと変わったところは？
 ⇒ 怖い人が多いのかなと思っていましたが、
 みんなとっても優しくかったです！
- Q6. スポーツ科学部を目指している高校生へ
 メッセージをお願いします！
 ⇒ 想像以上にみんなが親切で先生とも
 距離が近くて、とても楽しいです！

スポーツ科学部の仲間と



スタッフも潜入!! スポーツ科学部の施設見学へ

2017年4月に開設されたスポーツ科学部、未だ謎多きスポーツ科学部ですが、
 少しずつその全容が明らかになってきました！今回、知られざるスポーツ科学部の
 実態を一部ご紹介します！

まず、スポーツ科学部の学生たちが口を揃えて言うのが「指導陣がとっても熱心」ということ。

スポーツに対して熱い情熱をもった教授たちがスポーツへの興味・関心をさらに広く、深く、あらゆる“なぜ？”“を一緒に考えてくれます。

新設のSALTOは最新の設備が整い、障がいを持った方にも利用しやすい施設。1階から2階をつなぐスロープは弱視の方にも見えやすいと言われているモトーンの色調(1)に。

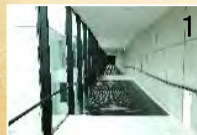
併設されている屋内プールは車イスの方や幼児にも利用できるよう床が可動式(2)になっています。

その他にもサッカーやラグビーの公式戦開催も可能な人工芝グラウンドは、優れた耐久性とクール機能で世界的にも評価の高いPolytan社製の人工芝(3)を愛知県内で初採用。青空に映える緑色がとても爽やかに感じられます。

また、スポーツ生理学・バイオメカニクスなどの各種実験室(4)も必見。電磁波の遮断されたシールドルームを使って、その前後の運動機能の変化を探ります。

その他にも魅力的な設備やカリキュラムがいっぱい！

ぜひご自身の目で実際のスポーツ科学部をご覧ください!!



1. バスケットボールコート3面がとれる「スポーツ演習室」 2. 障害者スポーツの普及やパラリンピック選手の輩出など幅広く学びます 3. 金澤翔子氏（本学客員准教授）による書「挑」 4. 障がい者の方も利用しやすいマシンを取り揃えた「トレーニング演習室」 5. 広々とした「ダンススタジオ」 6. スポーツ系のサークル活動も盛んです!!

2017

信州+ (プラス)



長野県出身の学生活動や長野県内でのフィールドワークを紹介している「信州+」。学生参加のフィールドワークを紹介して、みなさんの学生生活の充実と未来戦略をサポートする取組です。

講義だけでは分からない、サークル活動やバイトだけでは見えてこない世界があります。そんな未知のゾーンに踏み込んで、県下全域の地域と現場に関わって、自分の世界や視野を広げてほしいと思います。

長野県を離れ愛知県で生活をする中で改めて感じたふるさと長野県の魅力とは？



長野のふくしを学んだふるさと実習

社会福祉学部3年生15名がエントリーした長野県内での社会福祉士実習（ソーシャルワーク実習）は、長野県内8つの社会福祉法人の協力を得て、長野市、上田市、松本市、池田町、下諏訪町、茅野市、駒ケ根市、飯田市にある11ヶ所の施設で実習が行われました。

各施設での実習担当者による指導のほか、実習指導者による巡回指導や長野実習担当教員の浅原千里先生による実習指導など、現場と学生をむすんだ多彩なメンバーによる指導が展開されました。24日間の実習を終えた学生からの感想を今号と次号でご紹介します。

Q1.実習を通して、学んだことを教えてください（上段）

Q2.今後の目標を教えてください（下段）



実際に現場に入り、先生方の支援の仕方や声かけの様子を観察させて頂けたことで、子どもたち一人ひとりに合った支援をすることが重要だと学ぶことができた。

声かけ一つにしても、その子に伝わりやすい言葉やジェスチャーがあり、その声かけでないと混乱してしまう場合も考えられる。その子を知る、理解するということは、その子との関係性を築いていくことにも繋がるため、関わる時間を大切にしていかなければならないと感じることができた。

今後の目標として、施設の利用者一人ひとりを理解することはもちろん、さまざまな施設を取り巻く環境に目をむけ、職種連携や地域連携に着目できるように視野を広げていきたい。

緑川 匡美 さん（篠ノ井高校出身）

実習を通して、個々の利用者にあわせた直接支援のあり方や、利用者の言葉や行動の背景を考える姿勢を学ぶことができました。私は自分なりのかかわり方を作り出してしまっていました。しかし、一ヶ月間の実習で利用者の日課と一緒に体験し、多くのコミュニケーションをとり、職員さんの支援を間近で見たことで、障害、特性、性格が異なる一人一人の利用者に合わせた関わり方をするべきであったと気がつきました。また、利用者にとってよりよい支援を展開していく姿勢も学ばせていただきました。

法律や歴史、技術だけではなく、障害の特性などの知識を身につけ、今回の実習を再考案し、利用者のQOLを促す支援、支援者のあり方を常に考えていきたいです。

山口 花音 さん（伊那弥生ヶ丘高校出身）

利用者の方々には自宅やグループホーム、短期入所施設での生活や他サービスの利用、ボランティアの方、医療機関とのつながりなどがあり、実習前に想像していたよりも多種多様なフォーマル、インフォーマルなサービスを利用する環境があった。利用者が安心して生活するためには、ご家族やボランティアの方、他施設等との連携が重要であることを、改めて実感した。

本人の気持ちや本人を囲む環境を考え、生活をより良くするために何ができるのか、一緒に考えることができるようになりたい。そのために行動や言葉に疑問を持ち、自分なりに考える力をつけていきたい。

竹原 未祐 さん（篠ノ井高校出身）

クライアントを理解するには、長い時間が必要であり、背景を知ったうえで関わる時に、言葉や行動の裏側にある思いを考える大切さを学んだ。また、施設での生活は、子どもにとって、社会で生きる基盤を身につけるための環境であること。その環境を作るために、児童はもちろんのこと、その周囲の人々への支援を行うことも必要であることを学んだ。

施設は子供達にとっての通過点であるということ。そのため、施設から社会に出た時に、少しでも困難な事を減らせるよう、地域と利用者を繋ぐ方法やサポート体制に関して調べていきたい。また、これから求められている地域福祉に関しても考え続けていきたいと思う。

今井 綾香 さん（松本美須ヶ丘高校出身）

実習ではたくさんの利用者さんと関わらせていただき、一人ひとりにあったコミュニケーションをとることの大切さを学びました。その中でやはり性格や考えていることは一人ひとり異なり、相手が話しやすい雰囲気でのコミュニケーションを取るることの大切さを知りました。この行動がいずれ利用者さんの本当の気持ちを引き出すことにつながり、適切な支援につなげられるのだと思いました。

今後は実習で学んだことを活かして、クライアントの気持ちを考え、クライアントにとって一番幸せな生活と一緒にすることが出来るワーカーになりたいと思っています。

水野 雛美 さん（下諏訪向陽高校出身）

利用者の方への支援方法は一つではなく、その時々々に適した支援に変えているということを学びました。そのためには日常生活やこれまでの生い立ちなど、家族やご本人、また施設で関わりのある職員に聞き、理解していくことが大切だと感じました。

利用者ご本人の希望をできるだけ実現できるように、一緒に考えていけるソーシャルワーカーになりたいと思っています。

佐藤 佑弥 さん（中野立志館高校出身）



辰野町川島地区のまちづくりを支援

辰野町

地域研究プロジェクトの「ボランティアコーディネートプロジェクト(担当教員:後藤順久教授)」に所属する3年生4名が、長野県辰野町の花街道に設置された看板の付け替え作業を行いました。

ボランティアコーディネートプロジェクトでは、辰野町川島地区を中心とした町おこし事業にも協力しており、今回の取り組みは設置から15年ほど経過した花街道の看板を整備することを目的に実施されました。学生たちは設置作業にあたり、愛知県で看板の文字入れや防腐作業を行い、当日は川島振興会の方とともに、古い看板の撤去や設置に伴う作業を協同で行いました。時には、バランス調整等に苦戦する場面も見られましたが、渡戸・下飯沼・門前の3つの地区への設置が完了し、その後、お米とお酒・塩のお供え物で清め、花街道を通行される方々の安全を祈願しました。

参加した学生からは、「これから自ら率先して川島地区の皆さんに関わることで地域に貢献し、今回のような形に残る取組みだけでなく、皆さんの記憶に残る活動をしていきたい」と感想と抱負が聞かれました。

10月29日には、同プロジェクト所属する学生8人が川島地区で開催された「横川峡紅葉祭り」に運営側として参加しました。

今年は、台風22号が接近する悪天候での開催でしたが、学生たちはテントの設営や看板設置などの事前準備の段階から運営として参加の手伝いを行いました。

祭りが始まると振る舞い酒やリンゴやバザーの販売を主催者と連携して行いながら、地域の現状や課題を聞き取る様子がみられました。また、大学独自の企画として、紙芝居(社会福祉学部「認知症啓発プロジェクト」が開発)の披露も行いました。悪天候の中での開催ではありましたが、多くのことを実際の経験を通して学ぶことができる充実したフィールドワークとなりました！



木曽地域でのインターンシップ参加！

木曽地域

木曽地域への移住促進につなげるため、長野県が初めて企画した中京圏の大学生を対象としたインターンシップ事業に長野県出身の経済学部2人が参加しました。

このプログラムは長野県名古屋事務所、木曽地域振興局、木曽郡内の町村の企画によるもので、農業・観光業務を経験しながら、地域の人々との交流を深めるプログラムとなっています。

インターンシップ初日、JR木曽福島駅を降りた学生2人を、木曽町の原久仁男町長をはじめとする多くの関係者が出迎えてくれ、



盛大な歓迎セレモニーが開催され、その後10日間にわたる就業体験に臨みました。農業・観光業に携わり地域おこしの仕組みや役割などを実践的に学ぶことができ、参加学生した学生も机上では学びきれない新しい視点や考え方を養うことができました。

美浜町の物産・観光を宮田村でPR！

宮田村

台風22号が接近した10月29日、長野県宮田村で第1回宮田市が開催され、宮田村出身の学生3人が美浜町の観光や物産をアピールしました。

今回の企画は、本学卒業生で宮田市の主催団体の会長でもある天野早人さんからの呼びかけがきっかけとなり、宮田村出身の学生が応える形で実現しました。参加した学生は学部や学科も異なっていますが、以前からの顔見知り。荒天のため人手としては少し寂しい時間もありましたが、美浜町のノリや塩などの特産品をアピールしていました。

参加した学生たちに参加した理由を尋ねると、全員が「地元貢献したい」と言葉を残したことが印象的でした。

出身地から離れた場所で学んでいても、地元貢献したいという気持ち、今後大切にしてもらいたいと思います。



茅野市発 寿齢讃歌写真展

11月1日(水)より15日(水)まで、「寿齢讃歌ー人生のマエストロ in 美浜キャンパス」を本学付属図書館1Fロビーで開催しました。この企画は、茅野市美術館のご協力を得て実現。2017年9月22日から10月9日まで、美術館で開催された「寿齢讃歌写真展12」の作品の中から、20点を展示。

2006年より茅野市美術館で始まった「寿齢讃歌写真展」は、今年で12回目。本学卒業生で客員教授でもあった故木之下 晃先生が始められた写真展です。

木之下先生は、国内外の著名なクラシック音楽家より高い評価を得た、音楽写真家でした。先生の作品は「写真から音が聞こえる」と言われ、モノクロの独自の黒色は「キノシタブラック」と呼ばれ、国内外で半世紀にわたって活躍されました。

音楽界の巨匠を撮影し続けた木之下先生が、「長く生きて来た人の人生からにじみ出る“風貌”こそ最高の芸術。市井で星霜を積み上げてきた人たちはみなマエストロ(巨匠)」と言われ始まった写真展。

「日本福祉大学で福祉を学んだからこそ自分の福祉活動」とライフワークに位置づけられ、茅野市の市民ボランティアの方々と地域に根付いた取り組みを展開されてきました。

先生が亡くなられた後も写真展は引き継がれており、今年も全国から87作品が寄せられました。



その内の20作品を、図書館のロビーに展示しました。

表情豊かなおじいちゃん、おばあちゃんの姿に、来館者の表情にもおもしろい笑顔がこぼれていました。

大学祭で 長野県産りんごを販売

11月4日(土)・5日(日)の大学祭で、学生長野県人会が毎年恒例の宮田村のりんごを販売しました。今年は「ふじ」と「つがる」の交配によって誕生した「シナノスイート」を販売。果汁が多くて、歯ごたえもあり、甘味もたっぷり。また、今年から新メニューとして、ソバと珈琲も仲間入りしました。

長野県人会の模擬店を毎年楽しみにしてくれている常連客の姿もあり、「今年は豚汁じゃないの?」との声もありましたが、新メニューのソバも「美味しい!」と大好評。珈琲も一杯ずつドリップした物を提供し、ペーパーズリーブには、信州をPRするメッセージやイラストも描かれていて、身体も心もホッとできました。

長野県人会の横では、静岡県人会が浜松餃子の模擬店を出店し、大盛況でした。



あなたの学生生活に信州を+、信州にあなたの学生生活を+!

阿南高校

大学スタディ・ツアー

高遠高校

10月17日(火)、阿南高等学校福祉コースの2年生が美浜キャンパスにて、社会福祉学部の学生と学習交流を行いました。

阿南高校福祉コース2年生は、「介護福祉基礎」、「生活支援技術」など、本格的に福祉関係科目を学んでいます。学生は、地元の福祉施設で実習を体験したり、ベッドメイキングや車いすの使い方などを指導する中で、多くの課題や疑問にぶつかります。

今回の実習での反省や課題を今後の勉強に活かすために、本学社会福祉学部の小林勇人先生と小林ゼミの学生に協力を得て、実習のふり返りと講義体験を行いました。

「会話が續かない時はどうすればいいですか?」、「レクリエーション活動失敗してしまった時は、どう切り抜けますか?」など一つひとつの質問に大学生も自分自身の体験談を含め、丁寧に答えてくれました。



「真面目に考えすぎないこと」、「コミュニケーションをとることを苦手な利用者さんもいるから、会話をすることばかり考えずに見守ることも大切!」など、先輩からの的確なアドバイスは、社会福祉施設で実習をしたからこそ言える助言だったと思います。

また、小林先生によるミニ模擬講義では、福祉の意味を共有しながら、私たちの生活を守ってくれている社会保障制度についても、日常生活をヒントに皆で考えてみました。



午後は半田キャンパスに移動して、介護学専攻の藤原先生による講義や阿南高校出身の先輩による大学案内、介護実習室の見学を行い、改めて高校と大学の違いに驚きを隠せない様子の高校生の姿が印象的でした。

大学スタディ・ツアー参加後、高校生の皆さんは先輩のアドバイスを励みに、学習や実習を意欲的に取り組んでいるようです。ふくしの勉強を始めたばかりの高校生にとって、今回の体験が今後の目標や活力に繋がり、これからの地域を支える人材に育ってくれることを願っています。

10月20日(金)、長野県高遠高校の2年生が美浜キャンパスにて模擬講義、大学見学を実施しました。参加者は同校文理進学コース等の2年生39名と学年会の先生方。

模擬講義は子ども、医療、心理、スポーツの4分野から、自分の興味ある分野を受講しました。



◆子ども分野 子どもの権利から「しあわせ」を考える
社会福祉学部 野尻 紀恵 先生



◆医療分野 生命と福祉を考える〜ターミナルケアとソーシャルワーク〜
社会福祉学部 田中 千枝子 先生

◆心理分野 こころの目でみる世界のふしぎ-自分と他者を知る心理学-
子ども発達学部 吉野 真紀 先生

◆スポーツ分野 競技スポーツにおけるドーピングの最前線
スポーツ科学部 竹村 瑞穂 先生



高校との授業とは異なり、専門分野の概論的な講義となりましたが、初めて聞く専門用語や専門知識に興味津々の高校生。

「これからは、する、みる、ささえるスポーツだけではなく、創り出すスポーツという視点が、私たちにも求められていることが分かった。」、「同じ人間でも、心理状況によって、物の見方や捉え方が異なる点、すごく興味深かった。」との感想もあり、普段あまり考えたことのない「命」や「権利」等の視点に触れたことで、新たな発見や気づきに繋がったようです。

講義のあとは、学食体験やスポーツ科学部サルト内の見学、大学生との交流を行いました。

「大学って自分の興味あることを追究できるから楽しそう!」との声に、「厳しい現実を知ることや辛いこともあるけど、自分の視野が広がっていくことは楽しいかな?」と大学生の本音も聞かれました。

医療ソーシャルワーカー (MSW)、ご存知ですか?

まつもと医療センター 中信松本病院 相談支援センター 篠原 春奈 さん

MSWってどんな仕事?

医療ソーシャルワーカー(MSW)って何しているの?とよく質問をされますが、なかなか想像が付きにくい仕事だと思います。私も答えに悩みますが、一言で言うと「患者さんや家族の方の、なんでも相談にのる人」と言っています。

人が生きるうえで病気になるということは、突然、災害に巻き込まれたと同じくらい大きな衝撃だと言われています。例えば、病院にかかっても薬をもらい健康を取り戻して、今までと変わらない生活を送れるというのが1番です。でも、そのような方たちのところには私たちは登場しません。

「癌になった。治療には高額な医療費がかかるらしい」、「転倒して足を骨折し前みたいに歩けない」、「もう治らない難しい病気だと言われた」、「肺炎は治ったけど今後普通のご飯は食べちゃダメだって」など病気やケガになったことで大きなショックを受け、前のような生活に戻れなくなってしまう方が多くいます。そのような方やご家族の相談にのり、どう生活をしていくのかを一緒に考え、支援をするのが私たちMSWです。



MSWの魅力

この仕事は1日が予定通りいかないことが多い仕事です。毎日同じ日々の繰り返しということはありません。「救急車できた患者さん、家族がいなくてどうする?」と呼ばれたり、「お金がないから治療しないと言っている。何か方法は?」と連絡がきたりと、予定外のことが次々と舞い込めます。そんな様々な方の相談にのり、一緒に悩み、喜び、悲しんだりたくさんの方の人生に触れ、学ばせて頂くことが

できることも魅力です。

患者さんは0歳から100歳を超えることもあります。生きるということ、死ぬということはどういうことなのか考える場面も多くあります。

仕事で大切にしていること

相談員といっても、自分一人で解決できるということはありません。患者さんやご家族の人生の一場面に関わる一人としての責任を持ちながら、医師をはじめとする多職種、他機関の専門家の方たちと協力し話し合いながら支援することが必要だと考えています。

また、相談をされる仕事ではあるものの、何かを与えることが仕事ではないと感じています。様々な制度や社会資源、専門職へのつなげるパイプ役でありつつも、患者さんや家族が本来持つ力は何があるのかアセスメントして関わることも重要だと思っています。

最近は発達障がいを抱えたお子さんや家族の支援をする機会が多くあります。医療だけでは解決できない問題に、私たちのような福祉職が一緒になって支え、活躍していけるように今後も頑張っていきたいと思っています。

皆様がこの仕事に興味をもち、将来一緒に働ける日を楽しみにしています。

社会福祉学部2007年度卒
松本美須ヶ丘高校出身



医療ソーシャルワーカー独自の国家資格はありませんが、MSWとして勤務するためほとんどの病院で、社会福祉士または精神保健福祉士の保持することを条件としています。



ふくしのお仕事紹介

私の仕事

日福卒業生はいま

学生奮戦記

大学生活4年間の学びを振り返って

4年間、さまざまな分野から保育を捉えるために、多くの教授や講師の先生方と交流を持ち、保育の歴史から始まり、保護者の目線や子どもの視点から保育を作り上げることを学びました。

また、多くの時間を費やして、子どもの発達について先生や仲間たちと一緒に考えることができました。座学だけではなく、模擬保育や実践を通して考えることができたことは、保育士としての一歩を踏み出す私にとって大きな自信となっています。



公務員試験を突破するために！

地元の公務員保育士として合格するために、まずは筆記試験の勉強に取り組みました。キャリア開発課の対策講座を活用したり、面接対策として地元の市政雑誌をチェックしたり、力を入れている活動や現状を把握するなど情報収集を徹底して行いました。

愛知県にいたるとなかなか地元の情報が入ってこないため自分自身で実習を組んだり工夫をしました。念願がなつて、4月から保育士として社会人1年目を迎えます。

子ども発達学部
子ども発達学科
保育専修 4年

小林 輝さん
(伊那弥生ヶ丘高校出身)



苦楽を共にした仲間との出会い

サークルは、小学3年生から高校3年生を対象にキャンプを行っている、あすなろキャンプの会に所属しています。

キャンプまでに数回子どもたちと交流をもち、夏休みを利用して現在4つの団体の子どもたちとキャンプを行ってきました。

子どもたちに大学生という存在を、先生でもなく、大人でもない「ちょっと年上の友だち」と思ってもらえるように交流しています。そのため、子どもたちと関わるなかで、涙が出るほど笑ったり、激しく衝突したりすることもあります。キャンプの最後には互いに別れを惜しんで泣くほどの絆が生まれます。

また、部員同士も一緒にいる時間が長い分、学年の壁をこえて仲が良く、お互いの家に遊びに行ったり、みんなで鍋を囲んだり、体調を崩したときにはお見舞いに来てくれたりします。

今は卒業までの残された時間のなかで、苦楽を共にしたかけがえのない仲間たちと過ごす時間も大切にしています。

サークルの仲間と一緒に！



第1回 アルバイト & 一人暮らし

長野県出身学生に聞いてみました・・・

教えて先輩!!

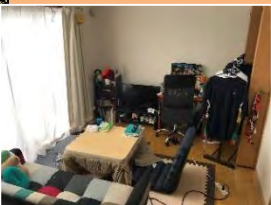
リラックスできるマイルーム

最近、寒くなってきて机をコタツに変えました。普段はここでご飯を食べたり、テレビを見たりとリラックスできるような部屋にしています。

授業終わりに友達とタコパをしたり、鍋をしたり、映画を見たりととても楽しく暮らしています！

長野から愛知に来て半年が経ち、少しずつ生活にも慣れてきて外に出ることも多くなりました。

趣味の古着屋巡りやスケボー、好きなバンドのライブなど楽しみが増え、部屋が自分の趣味でいっぱいになっていくのが楽しくて仕方ありません。



子ども発達学部 1年
常田 詩恩さん(須坂高校出身)

日本福祉大学には本学学生専用建てられた指定アパートがあり、「一人暮らし」をしっかりサポートします。入居者は日福学生のみなので学生同士助け合って生活でき、大家さんも近くに住んでいるので安心です。家賃は30,000円程度のリーズナブルな物件が中心です。

学生の多くがアルバイトをしています。他大学と違って特徴的なのが福祉施設でアルバイトをしている学生がたくさんいるということ。大学で「ふくし」を学びながら、その学びを仕事で活かす。また、仕事をしながら専門知識が得られるといった理由で福祉施設でのアルバイトは人気です。

もちろん、飲食関係や観光施設などのアルバイトも充実しています！

子ども発達学部 1年

清水 美紅さん(塩尻志学館高校出身)



利用者さんが作ってくれたチャーハン

笑顔になれるアルバイト

私は、障がいのある方の支援をする社会福祉法人でアルバイトをしています。余暇活動やグループホームでの支援をしており、グループホームでは夜勤で泊まることもあります。

利用者さんと関わる中で大切にしていることはコミュニケーションの取り方です。利用者さんの中には聞いてくること全てに返答していると逆にパニックになってしまう方もいます。また「意味が理解出来ている単語」と「音だけはわかっている単語」など、会話をしても噛み合わないこともあります。そのような時に、言いたいことを読み取り、利用者さんとの会話をつなぐ事が出来たとき、お互いに笑顔になることができ、やりがいを感じます。

まだまだ、上手くコミュニケーションが取れない事もありますが、利用者さんの出来ることが増える私も嬉しくなり、一緒に喜んでいきます。これからもっと深く関わられるよう、一人ひとりに合わせた支援が出来るように頑張っていきたいと思っています。



入試区分	日程	出願方式	出願期間 ※最終日は午前10:00まで	試験日
一般入学試験	前期	A方式(3教科型),B方式(2教科型)	1/4(木)～1/25(木)	2/3(土)～2/5(月)
	後期	M方式(2教科型),センタープラス方式	2/17(土)～3/2(金)	3/9(金)
社会福祉学部 スカラシップ入学試験	前期	B方式(2教科型)	1/4(木)～1/25(木)	2/3(土)～2/5(月)
大学センター試験利用 入学試験	前期	全学部出願型(3教科)	12/22(金)～1/12(金)	—
	前期	5教科型,3教科型,2教科型	1/4(木)～1/29(月)	—
	後期	2教科型	2/17(土)～3/2(金)	—
スポーツ分野入学試験 文化・芸術分野入学試験	後期	—	2/5(月)～2/13(火)	2/18(日)

【重要】 各入試内容については、「入学試験要項」「入試ガイド」を必ずご確認ください。
大学HP内「受験生サイト」のページもご確認ください。 <http://www.n-fukushi.ac.jp/ad/index.html>

社会福祉学部 スカラシップ入学試験

1. 4年間の授業料と入学金が半額に！
2. 特別育成プログラムによる教育を実施します。
3. スカラシップを逃しても、もう一つのチャンスが！
☆スカラシップが不合格でも一定以上の成績の場合、
一般入学試験(前期)合格の権利が得られます。



出願期間： 1/4(木)～1/25(木)※午前10時まで
(インターネット出願のみ)

募集定員： 20名

出願方法： 「一般入学試験【前期日程】B方式(2教科型)」に
出願と同時に「社会福祉学部スカラシップ入学試験」
に申請する。

試験日： 2/3(土)・2/4(日)・2/5(月)
※3日間とも長野会場・松本会場で受験ができます。

大学案内、入試ガイド、過去問題集を お届けします！！

日本福祉大学の入試に関する資料をご請求の方は右記の大学ホームページ、又は松本オフィスまでご連絡ください。お待ちしております。



LINE@

公式LINE@アカウント
で最新情報を配信中！

ネット出願、出願期間の情報はLINEと受験生サイトを中心に告知していきます。
またイベント情報、キャンパスライブ情報などもお届けします！



EVENT

通信教育部 2018年度入学説明会

日 時:2018年3月3日(土)
14:00～16:00
場 所:長野ハスターミナル会館4階
(長野市大字中御所
岡田町178-2)

※事前予約は必要ありませんので、
お気軽にお越しください。

日本福祉大学 長野県地域同窓会総会 長野実習報告会

日 時:2018年3月10日(土)
12:00～16:00(予定)
場 所:えんぱーく
(塩尻市大門一番町12-2)

※詳しくは下記フェイスブックで
お伝えしていきます。

第8回 社会福祉施設の アート&クラフト展

日 時:2018年3月16日(金)
～3月17日(土)
場 所:アイシティ21
(東筑摩郡山形村7977)

※今回から会場が変更になりました
※詳しくは下記フェイスブックで
お伝えしていきます。

犀川スキーバス事故 三十四回忌法要

日 時:2018年1月28日(日)
9:30～11:30
場 所:正源寺
(長野市七二会甲1514)

現地慰霊碑
(長野市信更町字坪登
4677-4地先)

日本福祉大学 松本オフィス

〒390-0815 長野県松本市深志1-1-24・3F

TEL:0263-31-9011 FAX:0263-32-8018

開館時間:10:00～18:00(日・月・祝は休館)

MAIL:e-matsumoto@ml.n-fukushi.ac.jp

日本福祉大学地域
ブロックセンター
フェイスブックもご覧
ください！

